オタワでのトルドー、大平両首脳（写真wwp）

トルドー・大平両首脳が会談

日加関係の発展を確認

トルドー首相と大平首相は、五月五日オタワで、翌六日バンクーバーで会談し、国際情勢および両国関係について討議した。

両首脳は一九七六年にトルドー首相が訪日して以来の日加関係の進展を回顧すると共に、貿易問題を中心に意見を交わし、両国関係の強化発展を確認した。

両首脳はまずイランによる米国人外交官の拘束について、それが国際平和に重大な脅威をもたらしているとの深刻な憂慮の念を表明し、問題の平和的解決に努力する決意を述べ、また人質の即時開放を強く求めた。両首脳はソ連のアフガニスタンに対する軍事介入に反対し、介入の即時停止とソ連軍の撤退を求めた。

二国間関係では、日加外相の年次協議を発足させ、通商担当大臣の協議をもっとひん繁に行うよう奨励することが合意された。

両首脳はさらに、カナダの工業力、技術力を両国の経済関係に反映させるというカナダ側の要望を考慮し、加工品、工業製品、高度技術製品の対日輸出増大についても討議した。カナダが現在の原材料中心の輸出から、もっと加工品にウェイトをおいた輸出に移行したいと希望しているのは、周知の事実である。

そのほか、大平首相提唱の環太平洋構想、エネルギー協力、学術交流、科学技術協力などについても討議された。環太平洋構想に関しては、カナダの対太平洋地域に対する政策を検討するための会議が、今年十一月、バンクーバーで開催されることになっている。

日加共同声明

（両国関係に関する部分）

一、両首脳は、トルドー首相の一九七六年十月の日本公式訪問以降の日加関係の進展を満足の意をもって振り返り、両国関係の多様性と豊かさが増大してきていることを歓迎した。両首脳は、両国の国会議員間の交流が増大しつつあることが、両国関係に重要な側面を付け加えるものであることに喜びの意をもって留意し、日加議員連盟設立へのカナダ議会における最近のイニシアチブに対し、少なからぬ満足の意を抱いている旨述べた。両首脳は、日加両国が共通の関心を有する国際問題につき、緊密な協議と協力を行うことに合意し、国際情勢の一層の安定のため、ともに努力していくとの決意を再確認した。

一、大平首相は、環太平洋構想についての考え方の概略を説明し、また、両首脳は、太平洋地域において協力を促進することの重要性を強調した。トルドー首相は、他の太平洋諸国とともに、この構想を探求することに全面的に参画することについてのカナダ政府の関心を表明した。両首脳は、また、本構想が、長期的目標として広範な地域的コンセンサスに基づいてさらに発展させられていくべきであることにつき意見の一致をみた。

一、両首脳は、日加両国間の関係が、近年あらゆる活動分野において強化されてきていることに、満足の意をもって留意した。両首脳は、特に、より広い基盤を持った、より多様な関係が存在することは、相互の利益となるものであることに留意し、この目的を達成するための方策について討議した。

この関連で、両首脳は、政治レベルにおけるより定期的で深みのある協議の重要性を指摘するとともに、外務大臣間の年次会合を開始することに合意した。両首脳はまた、日加両国間の対話をさらに拡充し、新たな経済協力の分野を探求することを助けるため、通商担当大臣及び他の大臣間のより頻繁な会合を奨励することにつき意見の一致をみた。

一、経済の分野に転じ、両首脳は、二国間貿易において大幅な増大が見られ、一九七九年には六〇億ドルを超えたことに対し、少なからぬ満足の意を表明し、かかる増大が継続することに対する希望を表明した。市場へのアクセスの安定性及び供給の安定性に関連する問題の討議において、両首脳は、現存する二国間協議の場を活用して、貿易政策上の諸問題の解決に向って緊密に協力していくことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、石炭、非鉄金属、木材及び紙製品、穀物、油糧種子及び豚肉を含む原材料、半製品及び食料品が両国間の貿易に占める重要性を認めた。両首脳は、種々の工業製品の供給源としての日本の重要性につき留意した。同時に両首脳は、カナダの工業力及び技術力を反映させた互恵的な対日関係を発展させるというカナダの目的に留意し、また、この点に関連し、カナダにおける原材料の一層の加工の可能性、及びカナダの加工品、工業製品及び高度技術製品の輸出増大の見通しについて討議した。トルドー首相は、また、両国の自動車産業間のより緊密な協力の可能性を提起した。

一、両首脳は、CANDUの日本への販売の可能性をも含め、両国間のエネルギー分野における協力拡大の可能性を検討し、かつ討議した。トルドー首相は、CANDUシステムの販売が両国間の貿易経済関係の強化に貢献しうることにつき留意した。両首脳は、一般炭及び関連技術を含め、多くのエネルギー分野において協力の継続と拡大の可能性が存在することにつき意見の一致をみた。

トルドー首相は、北東ブリティッシュ・コロンビア州産の石炭の日本への販売の可能性の問題を提起した。大平首相は、業界間で討議が行われていることに留意するとともに、この討議がすみやかに妥結することにつき希望を表明した。

一、両首脳は、両国間の経済協力を増大することに対する誓約を新たにし、これを強化しうる方途につき細心の考慮を払った。両首脳は、一九七六年の経済協力大綱の署名以来生じた発展を再検討し、投資、合弁事業、技術交流及びその他の活動において、両国経済にとり相互利益をもたらしうるような相当の可能性が依然として残されていることにつき留意した。この点で、両首脳は、両国政府がそれぞれの外資政策を通じ、相互利益をもたらすような投資を助長するような環境を維持するよう努めるべきことにつき意見の一致をみた。

両首脳は、経済協力及び立体的な経済関係の長期的発展を促進する上で、日加経済協力合同委員会のもつ重要性について強調した。

一、両首脳は、日加両国間の成熟した関係は、できる限り幅広い分野において、それぞれの相手についてより多くの知識を有し、かつ、その事情について精通していることを必要としているとの認識の下に、学術研究及び文化関係における最近の進展について満足の意を表明した。両首脳は、日本におけるカナダ学会、及びカナダにおけるアジア学会日本委員会の創設に特に意を強くした。

一、両首脳は、科学技術における両国間の協力の重要性につき留意した。両首脳は、来たる六月東京で開催される予定の第四回協議が、かかる進展に一層の刺激を与え、科学技術分野におけるそれぞれの国の能力の強化を促すような新しい協力分野を見出すことを促進するであろうとの希望を表明した。